

尾張旭市都市再生整備計画事業評価会議 会議録

- 1 開催日時
令和元年12月16日(月)
開会 午後2時00分
閉会 午後3時30分
- 2 開催場所
尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1
- 3 出席委員
佐藤 勝美、水津 功、菅井 径世、宇野 恵子、松原 圭子
- 4 欠席委員
なし
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
都市整備課主幹 二村 正篤
都市整備課長補佐 林 幹人
都市整備課主査 後藤 祐輔
- 7 出席した事業評価委託業者(玉野総合コンサルタント株式会社)
事業計画課課長 山下 芳和
事業計画課 三浦 萌
- 8 議題等
 - (1) 都市再生整備計画事業の概要について
 - (2) 事後評価実施スケジュールについて
 - (3) 尾張旭中央地区の事後評価について
 - ア 事業概要
 - イ 数値目標達成状況等
 - ウ 今後のまちづくり方策
 - エ フォローアップ
 - (4) 事後評価原案に対する意見の紹介について
 - (5) 委員からの意見聴取

9 会議内容

【目的】

事後評価結果の合理性・客観性を担保するため、第三者によって構成される評価会議にて審議し、市の評価を総合的かつ専門的な知見から補強する。

加えて、今後のまちづくり方策について意見を求めることを目的とする。

【概要】

市が会議構成員を紹介後、構成員の互選で佐藤氏を座長に選出した。座長が司会を務め、玉野総合コンサルタント株式会社が議題に沿って、事後評価の進め方、尾張旭中央地区の事業内容、事後評価内容、今後のまちづくり方策について説明を行った。説明に対する質疑応答の後、構成員から事後評価シート（案）に対する意見を聞いた。

1 質疑応答について

【佐藤委員】

市民アンケートは、どのように行っているか。

【市】

無作為に抽出した市民からアンケートを取っている。その中から、都市再生整備計画（尾張旭中央地区）に関する数値を抽出している。

【菅井委員】

アンケートは何人からとっているのか。

【玉野】

約 1,500 人が回答している。子育てしやすい割合については、中学生以下の子どもがいる保護者に限られるため、約 400 人になる。

【杉原委員】

世代によって意見も違うことを認識しておく必要がある。

2 主な意見等

【佐藤委員】

- 人口が増加したことは良いことである。
- 尾張旭市は病院も多く、災害の危険性も少なく住みやすいまちだと思う。
- 尾張旭市は個性がないまちと言われることがある。今後、日陰をつくり周辺住民のオアシス的な存在となる公園整備等、個性のある施設ができると良い。

【水津委員】

- 目標と指標設定の関係性が適切ではなく、まちづくりの質に対する評価ができない。
- 指標1で人口増加を達成したとあるが、今後、ある時点からは確実に人口減少傾向となるため、今後の課題等で人口減少について触れておくべきである。
- 土地区画整理事業に関する事業が、都市再生整備計画の主な事業となっているが、過去の土地区画整理事業の反省点が活かされているか不明である。単に土地区画整理事業で基盤整備を行っただけでは、経年劣化によりまちの価値が下がっていく。時間を経るとともに魅力を増していくまちづくりが必要である。
- 問題点が見つからなければ、今後の改善策を考えることはできない。指標や市民アンケート内容等を工夫し、問題点や市民ニーズが把握できるようにするべきである。今後の課題として事後評価シートに記載したほうがよい。

【菅井委員】

- 区画整理によって、人口が増えることは良いことである。そして、人口増加の視点で、事業評価を行った点は良かった。
- 尾張旭市は住環境が良く、今後も魅力的なまちでいるためには、良好な住環境の維持が重要である。
- 公園については、今後増やしていくのか、どのように維持管理をしていくか等市の方針を考える必要がある。

【宇野委員】

- 土地の価値が上がり、新しく家を建てられる人が少なくなっている。例えば二世帯住宅が建築可能な宅地を供給する、無電柱化等を進め災害に強いまちにする等、付加価値のあるまちづくりが必要である。
- 水津委員が指摘しているように、市民の要望をくみ上げることができるよう、市民アンケートの内容を見直す必要があると考える。

【裕原委員】

- 文化会館が、ホールの座席から舞台が見やすくなった、ホワイエや展示室もきれいになった、トイレもきれいで使いやすい等、近隣市町に比べて充実し、市民として誇らしい。
- 人口減少や少子高齢化、その他の要素を鑑みて長期的なまちづくりをしていかなければならない。